

第1学年1組 生活科学習指導案

平成28年9月30日（金）5校時

場所
指導者
学校司書

1 単元名 ときどき！わくわく！いきものはかせ！

2 ねらい

○身の回りにいる生き物に関心を持ち、進んで探したり、親しみをもって大切に飼育したりすることができる。 【生活への関心・意欲・態度】

○身の回りにいる生き物が育つ場所について考えながら探したり、えさやすみかを工夫して飼育したりすることを通して、わかったことを表現したり、生き物とのよりよい関わり方を考えたりできる。 【活動や体験についての思考・表現】

○身近な生き物を探したり飼ったりして、それらの生息環境や動き、えさなどの特徴に気付くとともに、自分自身の生き物への親しみが増していることに気付くことができる。 【身近な環境や自分についての気づき】

3 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
身近な生き物に関心を持ち、進んで探したり、親しみをもって大切に飼育したりしようとしている。	生き物の生息環境を考えて探したり、生き物の特徴を観察したりし、それらを通してわかったことを表している。	生き物の採集活動や観察などの活動を行い、生き物の特徴に気付くとともに、生き物への親しみが増している自分に気付いている。

4 情報活用能力とのかかわり

「大田市小・中学校 情報活用能力指導體系表」における【図鑑の利用】及び【本場所（4・9類）】の能力を深める学習である。また、今後の学習のために付箋の使い方も指導する。

5 単元設定の理由

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の内容（7）「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。」を受けて設定した。

本単元では、身近な生き物を探したり、飼育したりすることを通して、生き物への親しみを持ち、それらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物を大切にすることができるようにすることを目指している。児童にとって、生き物の飼育や観察は、毎日が発見や感動の連続である。生き物の成長を楽しみにしながら日々の関わりを深めていくことができる単元である。

生き物を継続的に飼育するためには、採集してきた生き物のえさやすみか、お世話の仕方などを考える必要がある。児童は日々の生活の中で得た知識や経験を思い出しながら生き物と関わっていくと考えられる。しかし、それだけでは解決できない問題も出てくるであろう。児童が「課題意識」をもち、それらを解決する方法を学び、生き物とのよりよい関わり方を見出していくことができる単元である。課題解決では、身近な人にインタビューをする活動や、図書館を活用した学習を展開することで、生き物への気付きの質も高まっていくと考える。

(2) 指導にあたって

本単元は、児童が身近な生き物と触れ合いながら生き物に関心や親しみをもち、大切に飼育したり生き物についての本を読んだりすることで、自分と生き物との関わりについて考えたり、気付いたりすることをねらいとしている。このねらいを達成するために、次のような指導の方法を考えている。

身近な生き物に関心や親しみをもち、大切に育てるための工夫

○児童の思考の流れにそった単元計画の作成

生き物が好きな児童にとって、採集・飼育活動は大変魅力的である。学習の導入で、今までの経験を想起し、生き物についての関心を高めていくことで、学習意欲をもたせたい。しかし、生き物が苦手な児童にとっては、進んで学習に取り組むことが難しいことが予想される。ダンゴムシなどの比較的触りやすい生き物を探したり、一緒に生き物を触ったりする活動を通して、苦手意識を減らしていきたい。

生き物を捕まえると、それを飼育したいという思いをもつ児童もたくさんいるであろう。しかし、えさやすみかなどの飼育の仕方を十分にわかっている児童はそう多くない中で、生き物を死なせてしまうと考えられるので、一度、生き物をもといた場所にかえすことにする。その後、「いきものはかせになろう」という目標設定をすることで、生き物のえさやすみかななどを調べたり、生き物についての知識を備えたりしていくように計画している。

○はかせカードの活用

はかせカードには、生き物と仲良くなってわかったこと（気付き）や調べて分かったことを書くようにする。形を2種類用意し、ハート型には自分の気付きや驚き、発見などを書くようにし、四角形には、人から聞いたり、本で調べたりしたことを書く。児童が生き物に愛着をもち、対象との関わりを通じた気付きを大切にしたいという願いから、調べることだけにこだわらず、児童の素直な表現を重視した気付きを取り上げていきたい。

○はかせポスターの作成

はかせポスターには、生き物の絵やはかせカードを貼り、自分が飼育する生き物についての気付きなどを記録・保管していく。生き物との関わりについて、記録を残していくことで、児童の対象への気付きや、自分自身への気付きも深まりや広がりが見られるのではないかと考えている。また、いつもポスターを教室に掲示しておくことで、児童同士の交流が生まれることも期待している。

児童がもっと知りたいことを調べることができる環境の整備

○学校図書館の活用

児童が、本を身近なものとしてとらえ、「知らないことがあっても、本を見るとわかるんだ！」という喜びや驚き、本のおもしろさを感じ、「わからないことがあるから本で調べてみよう。」という意欲をもって本を自ら手に取ることができることを目指して、本単元では図書館を活用した授業を取り入れていく。

児童が使用する図書は4類を中心に選書していく。4類は写真や絵が多く使われており、1年生の現状から、適当な図書が多いと考える。また、児童が少しずつ4類の図書にも関心をもち、読んでいる姿が増えていることや、一冊に一つの生き物について詳しく書かれていることから本単元のねらいにせまることができると考えるため、4類の図書を中心に扱っていく。選書は学校司書と連携し、生き物に関する図書を集めてもらったり、ブックトークを行ったりすることで、生き物に対する興味をもたせたい。特に、児童が初めて知るような内容の図書を取り入れてもらうことで、驚きと感動を味あわせ、今後の学習につながる意欲を高めていきたい。

4類の図書については今まで図書館での場所を簡単に知る程度の学習しか行っていない。そこで、図書の配架の学習を行う。また、もくじの使い方や、写真と文字の見方などについても学習していく。中には、「生き物の名前が詳しく知りたい」という児童もいるであろう。その場合は図鑑を紹介して活用できるようにしたい。

○付箋の活用

図書資料を使って調べた時には、付箋を使うことを習慣づけていく。見つけたページに貼ることや、知りたい情報が書かれている箇所（文章の冒頭や、写真）に貼り付けることを指導し、今後も継続して使うことができるスキルとして身につけさせたい。

○はかせカードの常設

児童が生き物を見て気付いたことや、触れ合っていく中で感じたことをいつでも自由に書くことができるように、教室にははかせカードを必ず置いておくようにする。また、製作途中の「はかせポスター」も掲示することで、意欲を継続させることができると考えている。

その他、以下のことにも留意しながら学習を進めていきたい。

ひらがなやカタカナの習得が十分でない児童も図書資料を扱うことができるようにする。

児童の実態からも、文字の読み書きには個人差があり、初めて読む内容を正しく、意味を理解しながら読むことは難しいと考える。また、今回使う図書資料には、カタカナが頻出する。カタカナは2学期になって学習するのできちんと身につけているとは言えない状況であろう。そのような困難さを抱える児童も、調べることの楽しさや新しい発見への驚きを味あわせたい。そのために、ひらがなとカタカナが一覧表になった「ひらがなカタカナ表」を用意し、読めない文字を自分で確認できるようにする。また、図書資料の写真や絵から自分なりに見つけた発見を大切にし、生き物について知識が増えていく喜びを感じさせたい。はかせカードにまとめるときは、文字だけにこだわらず、絵や図を使うことを推奨していく。

命あるものを大切にすること意識させる。

道徳などに関連させ、命についての学習を計画的に取り入れる。また、生き物が死んでしまったときは、学級でそのことを取り上げ、これからどうしたらよいかを話し合う機会をもつようにする。児童が生き物に思いを寄せ大切に育てることができるように、児童の生き物との日々の関わりをよく観察するようにする。

本時では、自分が飼育・観察したい生き物を図書資料から見つけ、その生き物について初めて知ったことや驚いたことを友だちと伝え合う学習を行う。国語科の学習において、もくじの使い方や本の見方を学習し、それを活用する場面でもある。

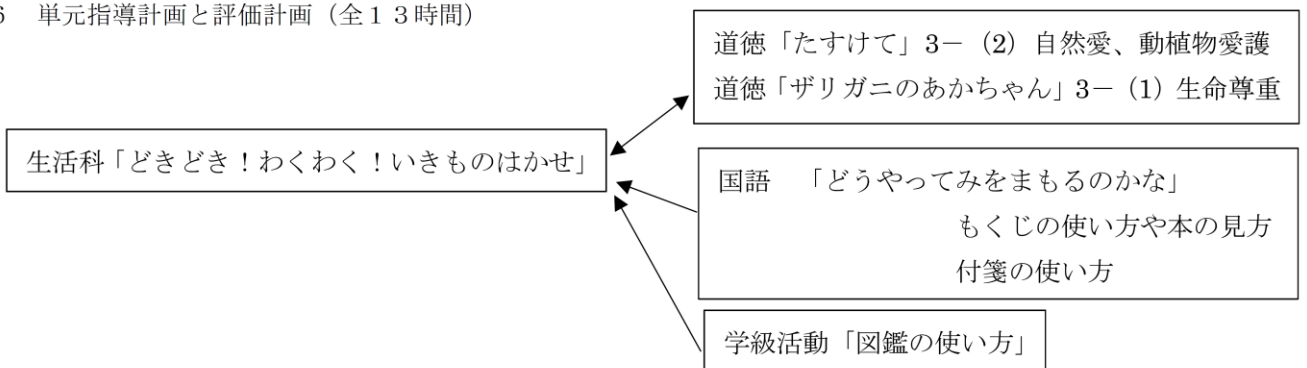
まず、本時までに行った国語科での学習を、掲示物を使って振り返らせる。もくじや本の見方は今後様々な場面で生かすことができる力であるので、繰り返し指導をすることで身につけさせたい。

図書資料は児童数よりも多めに用意するようにし、児童がいろいろな本を手にとることができるようにしたい。文字を読むことが困難であったり、たくさんの情報に混乱したりする児童には、見やすい本を用意しておき、適宜紹介することで、一人一人にあった本をできるだけ提供できるように整えておく。

発見や驚きが多く、付箋をたくさん使う児童と、なかなか見つけられず困ってしまう児童がいると考えられる。付箋の枚数は、一人1～3枚までとし、驚きや発見が多い児童には、友だちに教えたい内容を厳選するように声をかける。そうすることによって、写真をよく見たり、文を丁寧に読んだりし、生き物についてわかったことを深めることができると考えている。また、付箋がつけられない児童には、本と一緒に見ながら対話することで、発見や驚きを引き出していきたい。

本をじっくり読む時間を設定した後、自分が初めて知ったことや驚いたことを紹介する活動を行う。まずは、同じ生き物を調べている友だちと交流する。本を見せたり、指で示したりしながら紹介し、自分にはない発見や驚きを共有できるようにしていきたい。全体交流では、本から見つけた情報と、児童の今までの気づきの両方を取り上げながら展開していきたい。そして、本を見ることでさらに生き物について詳しくなったことを実感させるように声をかけることで、図書資料のよさに気付くことができると考える。また、他の生き物と比較することで、それぞれの生き物のおもしろさにも気付いていけるように、児童の発言を大切にしていきたい。

6 単元指導計画と評価計画（全13時間）



時	ねらい (★)・主な学習活動	指導上の留意点	評価規準および評価方法 ()
1	<p>小単元1</p> <p>いきものを見つけよう。</p> <p>★身の回りの生き物の生息している場所を考えながら探したり、捕まえた生き物を教室で飼育してみたいという思いをもったりすることができる。</p> <p>・夏休みを中心に今までに出会った生き物を紹介しよう。</p>	<p>○今までに見たことがある生き物の紹介を通して、生き物への興味・関心を高められるようにする。</p> <p>○生き物の生息環境の違いに気付かせるために、校内のいろいろな場所で生き物探しができるように下見をしておく。</p>	<p>関 生き物に関心をもち、自分の身の回りにいる生き物の様子を想起し、経験を進んで話したり、話を聞いたりして、楽しんで活動しようとしている。(行動観察、発言)</p>
2 ・ 3	<p>・学校にいる生き物を見つけにいこう。</p>	<p>○準備物を児童と一緒に確認し、進んで準備をすることができるようにする。</p> <p>○生き物を触ることが苦手な児童は、得意な児童や教師と一緒に採集活動を行い、少しずつ慣れていけるようにする。</p>	<p>思 虫などの生き物が生息している場所を考えながら探している。(行動観察)</p>
4	<p>・生き物を観察しよう。</p>	<p>○生き物をよく見て観察できるように観点を示し、はかせカードをかく。</p>	<p>思 生き物の動きや形を見て観察カードにかいている。 (はかせカード、発言)</p>
5	<p>・生き物が住んでいるところを見つけよう。 →捕まえた生き物は一度自然に返す。</p>	<p>○学校の地図を用意し、生き物がいた場所を記録したり、もう一度生き物探しをしたりすることで、生き物の生息環境がわかるようにする。</p>	<p>気 生き物がいる場所に共通する事柄を見つけ、友達に話したり、発表したりしている。(行動観察、発言)</p>
	<p>小単元2</p> <p>いきもののひみつをみつけて、いきものはかせになろう。</p>		

1	<p>★生き物はかせになるために、図書資料を使って調べたり、すみかやえさを用意したりする中で、生き物の生息環境などに気付き、それらを大切に飼育することができる。</p> <p>・いきものはかせになるために知りたいことやそれがわかる方法を考えたりする。</p> <p>虫の名前、すみか、えさ、虫の触り方・持ち方、住んでいるところ、体の部分の名前 など</p> <p>本、友だち、家族、2年生 など</p> <p>・「はかせポスター」を見て、見通しをもつ。</p>	<p>○学校司書による生き物のブックトークを取り入れる。</p> <p>○ブックトークをもとに、「〇〇(生き物の名前) はかせポスター」のモデルを作り、見通しをもつとともに意欲を高める。</p>	<p>関 自分が捕まえていた生き物のことを思い出し、知りたいことを進んで考えたり、学習の見通しをもったりすることができる。</p> <p>(発言、ワークシート)</p>
2 本 時	<p>・本から生き物のひみつを見つける。</p>	<p>○国語科の学習を活かし、図書資料を扱えるようにする。</p> <p>○付箋を活用して、自分の発見を明らかにするとともに、友だちに話せるようにする。</p> <p>○交流の時間を設け、児童の素直な驚きや発見を共有する。</p>	<p>思 図書資料を読んで初めて知ったことや驚いたことに付箋をつけ、それを友だちに話している。</p> <p>(行動観察、発言、付箋)</p>
3	<p>・本から見つけたひみつを、はかせカードに書く。</p>	<p>○前時での学習を残しておく。(付箋)</p> <p>○本を参考に、絵や文で表すように声をかける。</p>	<p>思 図書資料を読んで、初めて知ったことや驚いたことをカードに言葉や絵で表している。</p> <p>(はかせカード、行動観察)</p>
4	<p>(時間外)・インタビュー活動</p> <p>・もう一度生き物を見つけにいき、今までの知識をもとに飼育する。</p>	<p>○文字の読み書きが困難な児童も意欲的に活動できるよう、図書資料で調べるだけでなく、インタビュー活動を取り入れる。</p> <p>○作成中の「〇〇はかせポスター」は教室に掲示しておき、興味・関心を持続できるようにする。</p> <p>○生き物との関わりから見つけたことはいつでも記録できるように「はかせカード」を用意しておく。</p>	<p>関 生き物に関心をもち、進んで調べたり、大切に飼育したりしている。</p> <p>(行動観察、発言)</p> <p>気 生き物の動きや形、えさなどの特徴に気付いている。</p>

			(はかせカード、発言)
	<p>小単元3</p> <p>いきものはかせのほっぴょうかいをひらこう。～はかせポスターをつかって～</p> <p>★飼育している生き物のことや生き物と自分との関わりについて考え、周りの人に伝えることができる。</p>		
1	・自分が大切にしてきた生き物を友だちに紹介する。	○発表の仕方のモデルを提示し、イメージをもたせる。	関 「〇〇はかせポスター」や自分の生き物のことを進んで友だちに話している。 (発表、行動観察、発言)
2		○「〇〇はかせポスター」だけではなく、実際に生き物を触ったりすみかを見せたりしながら紹介できるように練習させる。	
3	・大切にしてきた生き物に手紙を書き、虫をもといた場所に返す。	○手紙を書く活動を通して生き物と自分との関わりを振り返ったり、自分自身の成長に気付いたりできるようにする。	気 学習を始める前よりも、生き物への親しみが増したことに気付いている。(手紙、発言)

7 本時の学習 (7 / 13)

(1) 本時のねらい

自分が飼育、観察したいと考えている生き物について、本を読んで初めて知ったことや驚いたことを友達に話すことができる。

【思考・表現】

(2) 本時の展開

時間	学習活動	教師の支援・指導上の留意点		評価 (評価方法)
		T1 (担任)	T2 (学校司書)	
3分	1 本時の学習の見通しをもつ。	・自分が飼育、観察したい生き物についてのひみつを見つけるために、本を読むことを確認する。		
いきものはかせになるために、ほんから〇〇のひみつをみつけよう。				
7分	2 調べる本がどこにあるのかを確かめたり、もくじの使い方や本の見方、付箋の使い方を振り返ったりする。	・掲示物などを使って視覚的に支援し、もくじの使い方や本の見方が理解できるようにする。 ・驚いたことや初めて知ったことに付箋を貼	・本の分類や場所を確認する。	

15分	3 本を読んで、付箋をつける。	<p>ることを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら、本の見方を確認したり、一緒に読んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童のそばで絵や写真の多い本をすすめたり、本の見方を一緒に確認したりする。 	<p>発見や驚き、知りたかったことを本から見つけ、付箋をつけることができる。(付箋)</p>
15分	<p>4 初めて知ったことや驚いたことを友だちに話す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>しょうかいするときのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えやしんをみせながら。 ・ゆびでさしめしながら。 </div> <p>① 一人で練習 ② ペアで紹介 ③ 全体で交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介するときのポイントを掲示する。 ・わかったことを自分で声に出すことによって、本から得た情報を確かなものにさせる。 ・実物投影機を使って、全員で共有できるようにする。 		<p>付箋をつけたところを友達に紹介することができる。</p> <p>(行動観察、発言)</p>
5分	5 ふりかえりをして、次時の学習を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動をもとに、次時は自分が飼育、観察したい生き物についてカードに書くことを伝え、意欲を高めるようにする。 		

(3) 予想される児童の具体的な姿

	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
生き物について図書資料を読んで初めて知ったことや驚いたことに付箋をつけ、友だちに話すことができる。	<p>図書資料から、驚いたことや初めて知ったことを見つけ付箋をつけ、それを自分の経験や知識と結びつけたり比べたりしながら友だちに話している。</p>	<p>図書資料から驚いたことや初めて知ったことを見つけ付箋をつけ、それを友だちに話している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料を見たり読んだりすることが難しい →ひらがなカタカナ表を見せたり、一緒に読んだりする。 ・友だちに、付箋をつけたところを話すことが難しい。 →あらかじめ、練習をするときに一緒に行く。

			→まずは写真や絵を見せるように声をかける。
--	--	--	-----------------------

(4) 研究の視点

○本を見て初めて知ったことや驚いたことに付箋をつけたことは、友だちに紹介するとき役立っていたか。